

## ①川芎農薬適用拡大試験

### 1 目的

せんきゅうハダニ類に対する新たな農薬の適用拡大を目指した防除効果及び薬害の検討

### 2 設置場所

帯広市農業技術センター 圃場

### 3 試験方法

#### (1) 供試面積及び区制

薬効・薬害試験：1区 10.56 m<sup>2</sup> (4×2.64 m) 53株 3連制

#### (2) 耕種等概要

定植：2024年11月1日 栽植距離：畝幅66cm×株間30cm 露地栽培

施肥：基肥 2024年11月1日 (N3 P24 K12 kg/10a)

#### (3) 処理方法

処理年月日：薬効・薬害試験 2025年7月23日 (作物のステージ：生育期)

処理量：通常量区 希釈倍数1000倍 水量100L/10a

### 4 試験結果

両試験とも、道総研十勝農業試験場が主体となって実施した。

#### (1) 薬効試験

供試薬剤	希釈倍数	30葉あたり雌成虫数				薬害
		7月23日	7月26日	7月30日	8月5日	
A剤処理区	1000倍	57.3	4.7	15.3	47.0	—
対照剤 (コテツフロアブル)	2000倍	55.0	10.3	18.0	16.3	—
無処理区	—	26.7	167.3	228.7	237.0	—

#### (2) 薬害試験

散布3日後(7月26日)、7日後(7月30日)、散布13日後(8月6日)に茎葉について生育抑制、薬斑等薬害の有無を肉眼で観察したが、薬害は認められなかった。

### 5 考察

本剤の1000倍液の茎葉散布は、対照薬剤のコテツフロアブル2000倍液と比較して同等の防除効果であった。無処理区に対して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられた。薬害は認められなかった。

## ②当帰農薬適用拡大試験

### 1 目的

とうきハダニ類に対する新たな農薬の適用拡大を目指した防除効果及び薬害の検討

### 2 設置場所

帯広市農業技術センター 圃場

### 3 試験方法

#### (1) 供試面積及び区制

薬効・薬害試験：1区 6.93 m<sup>2</sup> (3.5×1.98 m) 52株 3連制

#### (2) 耕種等概要

定植：2025年5月8日 栽植距離：畝幅66cm×株間20cm 露地栽培

施肥：基肥 2025年5月8日 (N3 P24 K12 kg/10a)

#### (3) 処理方法

処理年月日：薬効・薬害試験 2025年8月1日 (作物のステージ：生育期)

処理量：通常量区 希釈倍数1000倍 水量100L/10a

### 4 試験結果

両試験とも、道総研十勝農業試験場が主体となって実施した。

#### (1) 薬効試験

供試薬剤	希釈倍数	30葉あたり雌成虫数				薬害
		8月1日	8月24日	8月8日	8月15日	
A剤処理区	1000倍	26.7	1.3	1.7	0.3	—
対照剤 (コテツフロアブル)	2000倍	52.0	8.3	1.0	0.0	—
無処理区	—	56.3	56.7	15.7	1.0	—

#### (2) 薬害試験

散布3日後(8月4日)、7日後(8月8日)、散布14日後(8月15日)に茎葉について生育抑制、葉斑等薬害の有無を肉眼で観察したが、薬害は認められなかった。

### 5 考察

本剤の1000倍液の茎葉散布は、対照薬剤のコテツフロアブル2000倍液と比較してやや劣る防除効果であった。無処理区に対して効果は認められたがその程度は低かった。効果はやや低い実用性があると考えられた。薬害は認められなかった。